

◆ 青森県の大腸がんの調査で分かったこと (H29~R1)

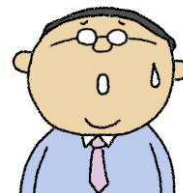
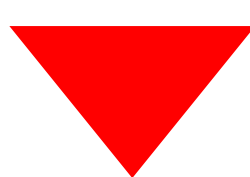
① 検診を長い間受けていない人から、がんが多く見つかりました

しかし！

② その多くは、治癒が可能な早期のがんでした

そして！

③ 早期のがんだった人の約75%は、自覚症状がありませんでした



ということは？

たった**2つ**の行動で、あなたの大腸がん死亡リスクが低下します

◆ **毎年検診**を受ける

◆ 結果が「要精検」の場合、**必ず精密検査**(内視鏡検査)を受ける

(自覚症状がないことを理由にした、自己判断は禁物！)

今を変えれば！ 未来は変わる!!

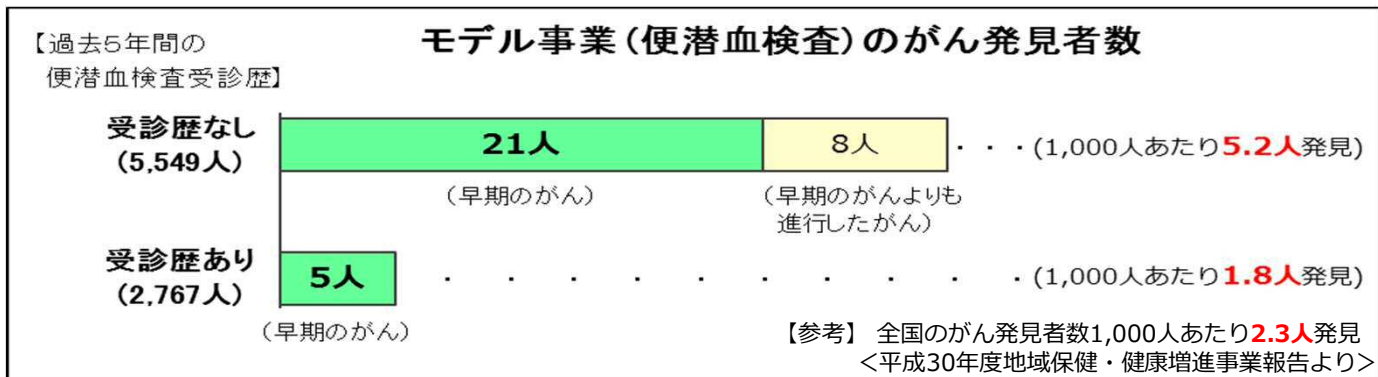


2つなら実践できそう！

～青森県大腸がん検診モデル事業（平成29年度～令和元年度）の結果より～

「青森県大腸がん検診モデル事業」とは、青森市と弘前市に住む50歳代を対象に、県が便潜血検査と希望者限定の内視鏡検査を行い、大腸がん検診未受診によるリスクを検証した事業のことです。

- ① 長期間検診を受けていない場合、毎年検診を受けている人に比べ大腸がんが多く発見されます
- ② モデル事業で発見したがんの多くは、進行の程度が小さい早期のがんです



※ 大腸がんは、早期に発見できれば**99%以上の方で治療が可能**です。

なお、早期のがんはステージⅠよりも進行していない状態です。

また、進行したがんでも**進行の程度**によっては十分治療が望めます。

進行の程度	小				大
病期（ステージ）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	
生存率（%）	99.1	90.5	84.3	22.9	

<出典：全がん協部位別臨床病期別5年相対生存率(2010-2012年診断症例：大腸がん)>

★ 検診で見つかる大腸がんは、病院で診断されるがんに比べ、早期がんが多いです。

➡ **毎年検診を受け、早期にがんを発見することで、大腸がんの死亡リスクは低下します。**

③ 早期のがんは、ほとんど自覚症状がありません

モデル事業の早期のがん（疑い含む）発見者数	早期のがん発見者のうち問診で血便も腹痛も「なし」と回答した人数	
便潜血検査	26人	18人
内視鏡検査	24人	19人
計	50人	37人

➡ 約4人に3人は、**自覚症状がなかった**

➡ **検診結果が「要精検」の場合、自覚症状がなくても精密検査(内視鏡検査)を受けることで、大腸がんの死亡リスクは低下します。**